

第2回 神戸2025ビジョン策定に向けた有識者検討会議

— 議事要旨 —

日時：令和2年9月14日（月）15:00～

場所：神戸国際会館9階セミナーハウス 大会場

<出席者>

委員：

氏名	役職
(会長) 品田 裕	神戸大学 理事
植戸 貴子	神戸女子大学 健康福祉学部教授
嘉納 未来	ネスレ日本株式会社 執行役員 コーポレートアフェアーズ総括部長
栗山 尚子	神戸大学大学院工学研究科 准教授
中林 志郎	神戸商工会議所 専務理事
服部 孝司	神戸市民文化振興財団 理事長
藤岡 義己	兵庫県中小企業家同友会 代表理事
眞鍋 智子	連合神戸地域協議会 副議長

(敬称略、五十音順)

「神戸2025ビジョン策定に向けたワーキンググループ」代表：

氏名	役職
織田澤 利守	神戸大学大学院工学研究科 准教授
山田 基靖	学校法人摺河学園 学園長

(敬称略、五十音順)

<配布資料>

- ◆ 議事次第
- ◆ 資料1: 委員名簿
- ◆ 資料2: 神戸2020ビジョン総括検証・評価報告書
- ◆ 資料3: ワーキンググループ議論報告書（「若者が選ぶまち」グループ）
- ◆ 資料4: ワーキンググループ議論報告書（「誰もが活躍するまち」グループ）
- ◆ 資料5: 神戸2025ビジョン全体構成（案）
- ◆ 資料6: 施策の柱ごとの具体的なあるべき姿・施策検討状況
- ◆ 資料7: 今後のスケジュール
- ◆ 資料8: （参考資料）神戸2025ビジョン策定に向けた各アンケート調査結果からの示唆
- ◆ 資料9: （参考資料）神戸2025ビジョン策定に向けた各アンケート結果（抜粋）

1. 神戸 2020 ビジョンの総括検証について

<事務局>

－資料 2 に基づき説明－

2. 質疑応答及び意見

なし

3. ワーキンググループの議論報告

<委員>

－資料 3 に基づき「若者が選ぶまち」グループの説明－

<委員>

－資料 4 に基づき「誰もが活躍するまち」グループの説明－

4. 神戸 2025 ビジョンの全体構成

<事務局>

－資料 5・6 に基づき説明－

5. 意見交換

<委員>

- ・意見交換をお願いします。お諮りしたい内容は、2点ある。まず1点目はテーマを含めて全体構成案が事務局案で十分かということである。2020 ビジョンから引き継ぐテーマと新たに考えたテーマについて、もう少しうまく表現できないか、あるいは本当にこれでいいのか、それに従い全体の構成と施策の7つの柱がこれで十分かということである。また2点目は、その議論を前提として、資料6にテーマを実現するうえで、7つの施策の柱ごとにあるべき姿を掲げているが、これが適切かどうかという点と、進捗を図るためのKPIについてこの考え方がこれでいいのか、それぞれの施策の中の各事業が適切かどうかという点についてご意見いただきたい。まず、テーマと7つの柱の全体構成についてご意見をいただきたい。

<委員>

- ・資料6の①「魅力的な仕事の創出と多様な人材の確保による経済成長」について、仕事や企業がなければ、こういう動きにならない。魅力的な企業があってこそなので、どんな企業を創出しようとしているのか。5年という期間なので、かなり具体的でなくてはならない。その視点を入れてほしい。この数カ月、経営と企業の存続について強い危機感を持っている。行政からの支援策でなんとかもっているが、これが途切れるとどうなるのか。倒産する企業が増えているなかで、神戸は99パーセントが中小

企業であり、そこがしっかりとしていなければ働く場がなくなってしまう。学生にとって魅力的な企業がなければならない。神戸市がどのような企業を創出しようとしているのか、またその支援について示してほしい。経営の立場からいうと、DXを取り入れない企業は存続できない。DXを事業経営のプロセスにどう取り入れるか。デジタルネイティブの世代が社会にどんどん出てくる。そんな斬新な発想をもっている世代を取り込んで育成できる企業・まちが今後生き残っていくので、企業像を明らかにしてほしい。またDXをどう支援するのか、デジタルネイティブの世代が活躍できる街にするにはどうしていくのかについて、もう少し明確にできるといい。

<委員>

- ・資料5の「取り組みの視点」の3「進化するテクノロジーの実装による市民生活の豊かさと利便性の向上」においても、リテラシーをどう育てていくかが大事。いくら実装しても、それを市民が受け取れなければ意味がない。神戸の強みとして進取の気性と書いてあるが、それはもう過去の話かもしれない。今はどこも国際都市になっていて、今の言葉としてマッチするのか。魅力的な仕事として、スタートアップもあるかもしれないが、既存の企業とどうマッチさせて、どんな産業を目指そうとしているのか、もう少し踏み込まなければ物足りない。また、大阪で働いて、神戸で住むということでもいいので、そういったことの融合性をどう織り込んでいくか。個別に縦軸にすると少し矛盾が生じる。資料5の2「あらゆる危機への平時からの備えと、人と自然が調和する神戸らしい新たな価値・スタイルの創造」のところも、どこの都市でもそうであるので、神戸独自のものが何かということに踏み込む必要がある。

<委員>

- ・ビジョンのテーマとして、「人と自然が奏でる創造のまち」とあるが、中身とマッチしていない印象がある。施策との紐づけが弱いと感じる。働く場所も変化していく中で、自然をうまく利用して企業との融合などに持っていけるとよい。ビジョンのテーマにするならば、もう少し強調するような取組があってもいいのではないか。

<委員>

- ・施策の柱⑥「将来にわたり持続可能なインフラ整備」について、気候変動やエネルギーに力を入れているが、サーキュラーエコノミーという観点はどのように入るのか。自然を守ることやゴミ問題は、企業や政府も非常に力を入れている。
- ・③「出産・子育て支援と特色ある教育環境の充実」について、学校教育において子どもに、デジタル化とSDGsで社会問題に対してのリテラシーが上がっている。企業に対して教育の依頼が増えている。協力する企業と、その企業のSDGsの取組と、子どもの教育は繋がっている。SDGs教育として神戸市の学校はどんなことをやっているのか。子どもから親へも広がるので、教育と企業の取組をうまく連携し、産学連携を強化できればいい。

<委員>

- ・ビジョンのテーマに「人と自然が奏でる」とあるのは良いことだと思う。施策の柱の②「神戸独自の魅力の磨き上げと発信」の「文化・芸術の振興」について、具体的なものがフルートコンクールと文化財というのは物足りない。神戸はデザイン都市としてユネスコで登録されており、市では昨年度からデザインクリエイティブ枠の職員を独自に採用するなどの取組をしているにも関わらず、そういった内容が盛り込まれていない。若者が選ぶまちとして文化芸術はインパクトがあるので、強調していきたい。コロナ禍で不況だが、今後5年間でどうなるか予想がつかないという点に触れられていない部分も懸念される。

<委員>

- ・多様性の部分について、障がい者は人口の7%であるのに、文言が1回しか出てこない。神戸市がどうあってほしいかという、地に足がついた、人にやさしいまちであってほしい。外から見てカッコいいではなく、日常生活が充実していることが大事。例えば防災において、どこの都市でも起こりうるが、神戸独自の対策があり支援が整っているとか、子育て支援であれば、経済的なことと子供を預けて仕事と両立するといったことの両方がある。神戸に住むということは日常生活が充実しているということが大事である。安心して暮らし、幸せだと思えるものであってほしい。自然と人間の関係も大事なので、日常的に自然に親しめて、文化活動ができるような環境が身近にあるというように。医療についても先端的で注目をされているが、HAT神戸にある小児救急センターは画期的で、そういうところをアピールしていくべき。教育においては、去年学校の先生のいじめなどがあったが、暗いイメージがついて嫌厭されるのは嫌だ。サービスが整っていて専門性が深く、日常生活が安心できるということが大事である。そういうところに行政としても力を入れてほしい。

<委員>

- ・資料6について、⑥「将来にわたり持続可能なインフラの整備」について、災害が激甚化しているので、災害に強い街を作る必要がある。災害の原因として気候変動があるが、都市の高温化、温暖化に対して何か施策をできないか。ヒートアイランド対策や、公園や道路に日陰を作るなどといった街を冷やすような取り組みを入れていく必要があるのではないか。また、グリーンインフラの概念も2025ビジョンに入れられないかと考えている。

<委員>

- ・これは誰のビジョンなのか、また5年という単位についてであるが、行政ならば20年30年後に向けて、5年後についてはもっと具体的に描かれるべき。この施策の柱は20年30年のスパンでやっていくことだと思う。5年後に向けてとするならば、もっと具体的にすべき。テーマについては、誰にとってしっかり受け入れられるのか。庁内で掲げるものと、テーマとして外に示すときは、別の言葉にするべきだと思う。

今、動いている目に見える投資は、5年では形にならない。2025までなんとか踏ん張らなければならない。20年後としては素晴らしいが、5年間どう耐えるかということも書いてほしい。

<委員>

- ・神戸に住む、イコール神戸で働くという見方だけでなく、神戸を基点にして外に出る、他で働き神戸に住むことにメリットがあるという見方もあり、二つのレイヤーがある。神戸に住む魅力、他にはない安心感、一生住みたいと思えるような。ビジョンのテーマ「若者が選ぶまち・誰もが活躍するまち・人と自然が奏でる創造のまち」が少し長く、焦点がぶれるという印象がある。「若者が選ぶまち」と「誰もが活躍するまち」は被る部分がある。人口減少で若者を取り込みたいという意識のもとで、「若者が選ぶまち」に重点をおくのであればいいが、「誰もが」という中に若者も含まれるので、SDGsの「誰一人取り残さない」を強調するならば、若者も含め誰もが活躍するまちとなる。
- ・SDGsについて、企業と教育現場の連携は増えている。地域にどんな企業や仕事があり、どんなSDGsを展開しているのかということが、キャリアを考えるきっかけとなるという意味で、キャリア教育の一環で企業との連携は非常に大きい。外に出ていなくても地域で仕事をするというビジョンを示せるようなSDGs教育が日本中で求められている。神戸で働くということを意識させるには、大学生になってから神戸に来ている学生に言っても手遅れで、神戸で育った人にどうアドレスできるのか。それがまさに③-4「SDGsを教育に取り込み、キャリア教育のきっかけに」ということを形作る必要がある。企業努力だけでは教育現場との繋がりがないので、行政が関わることの意義がある。神戸にある企業の今後の中長期的な発展に向けて、次世代投資は非常に重要になる。東京の私学はとても進んでいるが、包括的にできているわけではないので、行政がプラットフォームになることにより、企業と教育現場を繋ぐことで、就職や仕事の人のながれに繋がっていくような施策になるとよい。

<事務局>

- ・企業と若者の双方の立場を考えなくては、持続的にならないということが、SDGsと絡めて納得できた。委員がおっしゃったように単にイベントや象徴的はことだけが先行するのではなく、日常生活の安心が大切だという点も改めて考えさせられた。DXについても、全体構成の中で強調しなくてはならない。文化についても、書いていることが薄くなっているが、実際の神戸の文化芸術の取組はそうではないので、どのように表現していけばいいか、ご指導をいただきたい。ヒートアイランドについても、力を入れて取り組んでいる。どんな街づくりをすると温度を下げるができるのかなど、庁内で検討しているのでしっかりと反映させていきたい。人と自然に関しては神戸の強みであるので、盛り込んでいけるようにしたい。進取の気性という言葉が現在の神戸にあてはまっているかという議論もあったが、これを取り戻さなければ

いけないという思いもあってこのように記載したが、もっと市民によく伝わる言葉を考えたほうがいい。

<事務局>

- ・どの時点を目指して考えるのかということについて、5年後と考えると思考がそこで止まってしまうので、もっと先の2030年2040年を想定しながら、逆算して2025年にはどうあるべきなのかを、KPIを今後考えるうえでも、そういう視点で検討していきたい。今回は横断目標でも、新たなスタイルの創造ということで、コロナ渦での価値観の変容にも対応していきたい。仕事と居住地の考え方がかなり変わってきて、これまでは地方移住すると収入が減ることが前提だったが、今はオンライン・テレワークで仕事や収入を変えずに、地方移住できる時代がくるのではないかと考えられる。そういった様々な価値の変容をしっかりと受け止めて具体的な事業を考えていきたい。

<委員>

- ・テーマについて具体的な意見をいただいたが、今回はできれば「自然」ということを取り入れたいと考えている。海と山の両方があるまちは多くはない。今後リモートで働く人が増えてくれば、よい環境を提供できる。また、人を大事にするということが背景にあるので、「人と自然」となっている。しかし、結果としてどこの街かわからないということになってしまっている。なにかご提案はあるか。「創造」にはイノベーションを起こすということや文化の要素を含んでいる。テーマに絞って、ご意見をいただきたい。

<委員>

- ・優先的には若い人というイメージがあるので、順番としては「若者が選ぶまち」と「人と自然が奏でる創造のまち」が、接近性が強い。
- ・「誰もが活躍するまち」というのは、若者・高齢者・障がい者・外国人など目的や重点を置くべきところがちがうので、それをまとめて誰もが活躍するというのか。誰もが安心して暮らせるとか、充実して暮らせるというように、活躍するということでもあるが、充実した暮らしを送れているというニュアンスが強ければ、その組み合わせの方がいいのではないか。

<委員>

- ・とにかく長い。前回のビジョンからの引継ぎをそこまで重視する必要はないのではないか。神戸のことだとわかるような固有名詞などを入れてほしい。また、神戸が変わりつつあるということを前面に押し出していくべきだと思う。

<委員>

- ・コロナで変化した価値観として、地域愛が生まれている。今は地元産品から売れるという、消費者マインドができています。神戸の稼ぐ力が無くなっていることが問題。海外や国内の神戸以外の地域から外貨を稼ぎ、それを分配する力のある中小企業が必要

である。消費者が地元を選ぶということをベースに、魅力のある仕事場があるとい
い。どうコロナを機会にリセットするかが重要。理念を掲げて、それに向けて5年間
で何をやるのかがビジョンである。理念とビジョンを分けて、5年間のビジョンを明
確にし、具体的な行動計画を立て、しっかりとやっていけば、そんなまちは他にはな
いので、神戸市独自ということになる。行政が組織としての範を示して、民間企業が
それについていくといったかたちになるように。DXについてもそうになってほしい。

<委員>

- ・若者とは何を指すのか。大学生くらいまでという認識もあるが、事務局では39歳く
らいまでを若者とカテゴライズしている。一般感覚と施策にずれがある。若い人とい
うことであれば次世代という言葉を使ったほうがいいかもしれない。
- ・シビックプライドという点で、外国人に日本で知っている街と聞くと必ず神戸が出て
くる。日本人や神戸の人が知らないような、神戸の歴史や魅力を知っている。若者が
神戸で一生過ごそうと思えるような熱い思いが必要であり、世界で注目されていると
いうことは、シビックプライドの醸成の観点からも、大事である。神戸の魅力が世界
や日本国内にも伝わるといい。

<委員>

- ・大学の中では若者は40歳なので、私は腑に落ちたが。たしかに、一般では大学生の
イメージかもしれない。

<委員>

- ・「BE KOBE」はとてもいいと思う。あれはどのような位置づけなのか。関連づけるこ
とはできないのか。

<事務局>

- ・震災から20年というところで、神戸の誇れるものは人ではないかと考え、神戸の魅
力は人そのものだということを表している。神戸を誇りにしようという思いがある。
当初はロゴマークだけで表現していたが、一般にも活用してもらうために、いろんな
スポットにモニュメントを設けている。神戸のまちだけでなく人を誇りしようという
経緯があった。市政のさまざまな場面で使い、市民にうったえかけている。

<委員>

- ・神戸のビジョンということで、誰のためのものなのかということについて、神戸の市
民が参画することが大事である。各施策の中にも市民参加ができるように、いろんな
ことにチャレンジしたり、新たな取組ができるということをもっと入れていくべき
だ。一緒に創り上げていくのだというところをもっと見るといい。行政としての施
策ということではあるが、市民の参画をどうのばすかということが、もう少しあつて
もいい。そう考えると、ビジョンはわかりやすいものがないので、やはり長いので、
もう少しまとまるといい。

<委員>

- ・時間的な感覚はどうか。5年ビジョンを作るときに、5年後を意識して作るということ。

<事務局>

- ・基本構想の目標年次が2025年となっている。中長期的な基本構想のもと、2020ビジョン、2025年ビジョンで目標年次が合わさる。世界につながる神戸を表すような、市民創造都市といった表現もあるが、ビジョンというのは長期的なイメージがあるので、もっと行動計画的なものに落とし込んでいく必要があると感じた。2025年を目指した基本構想があるので、それとの整合性が課題である。

<委員>

- ・市民参画については、神戸は先進的である。その土壌が神戸市の行政・事業者であり、それが神戸の強みである。人を大切にする、日常の暮らしを支えるといったものが感じられるようなキーワードが何か一つ入るといい。

<委員>

- ・構成として、全てに「まち」がつくのが長すぎる。「～なまち」は一つにして、そこに補足としてキーワードを入れるという構成にしてはどうか。例えば、これを生かすのであれば「皆が誇れる創造のまち」とまとめて、その後に「人と自然の共創」といったキーワードを入れるなど、シンプルなものにしてはどうか。皆さまの議論の中で、「人と自然」はキーワードとして残したほうがいいということであった。

<委員>

- ・第5次神戸市基本計画の中で、前期と後期に分けているが、後期に前期とがらりと変えてもいいのか。前提条件として、前期と後期を合わせた10年のまとまりは考えなくていいのか。

<事務局>

- ・迷いがあるところで、人口が減っている中で、人口だけを追い求めるのではなく、質が高く、市民の方が住んでよかったという街を目指す必要がある。人がいないと活気が出ないので、その点で若者に選ばれる、人が集まるということは、2020ビジョンにおいても強調されている。次世代が神戸を選ぶということを表現したいという思いがある。ただし、他とはちがうものをテーマとして掲げるということも考えられる。本来としては、前のものを継承していくということである。

<事務局>

- ・第5次基本計画は15年間の計画で、2011年から始まり、最初の5年の2015ビジョンではテーマは「若者」ではなく、「暮らし・経済の向上」「新たなまち・魅力の創出」がテーマであった。2020ビジョンを作ったときは、人口減少で地方創生が叫ばれるようになった時期であった。それぞれの時期の象徴的なテーマをキーワードにして作っており、それが「若者に選ばれるまち」であり、神戸が目指す方向性が明確にな

った。ベースにある考え方は継承すべきだが、テーマはわかりやすさを求めていってもいいのではないか。

<委員>

- ・「BE KOBE」とビジョンがつながった方がいい。ビジョンは行政と市民に共通する言葉であるほうがいいので、テーマには「BE KOBE」が冒頭に入ったうえで、補足でキーワードを入れるほうがわかりやすい。個人的には「人と自然が奏でる」のほうが好き。温かさみたいなものが出てくるといい。神戸は尖っている部分もあるが日常の暮らしが満たされている、穏やかな部分もある。

<委員>

- ・神戸のもともと持っている外国人を受け入れる素質について、踏み込んだ目標とするのか。外国の企業をもっと入れて、それを魅了とするのか。
- ・プロモーションが下手というところで、どう反映されていくのか。

<事務局>

- ・外国との関係について、神戸は昔から海外に開かれており、現在もたくさんの外国人が住んでいる。様々な文化・宗教・人種が共生するという素地があり、多様性・多文化共生の一面を表現できる。外国の企業にもっと活躍いただきたいと考えており、企業誘致にも努めている。キーワードとしてどう表現するかは別として、ビジョンの中ではしっかりと強調していかなくてはならないと考えている。

<事務局>

- ・プロモーションについて、届けたいのに届いていないという現状があるので、しっかりとしたPRをするために、ビジョンのテーマとプロモーションで使う言葉が同一でなければいけないのか。今日出た意見を参考にして、なるべく短い言葉にした方がいい。

<委員>

- ・KPIのなかにその概念がない。

<事務局>

- ・いい指標があれば取り入れたい。

<委員>

- ・今頂いたご意見を反映させていきたい。施策の7つの柱については、別の切り口があると思うが、ご意見をいただきたい。

<委員>

- ・②「神戸独自の魅力の磨き上げと発信」が非常に抽象的である。文化芸術的なものが言葉として入ると分かりやすい。神戸市は文化芸術に力を入れているので、もっと表に出してもいい。

<委員>

②の神戸独自の魅力の磨き上げは、①から⑦の全てが魅力となるものであり、他に文化などがあってもいい。②の中に、三宮再整備など地域コミュニティや都市計画に関することも入っているので、他とは分けたほうがいいのではないか。

<委員>

・スポーツが完全に抜けている。三宮再整備はとてもチャレンジングな取り組みなのでここに置いておいてもいいと思う。

<委員>

・①が漠然としすぎている。もうちょっと具体的である必要がある。再整備は都市計画全体を見渡すとインフラの枠の中にまとめた方がすっきりするのではないか。

<委員>

・姫路駅の開発は失敗だと思っている。姫路駅に降り立って、姫路に来たという感覚がない。神戸には、インフラとしての性質もあるが、神戸に来たと実感する、神戸の魅力を感じる要素がある。他とはちがうとすることができるのが、強みである。それがなければ来る意味がなくなるので、②の魅力と⑥のインフラの両方に関わると思う。

<委員>

・一つにまとめる必要はない。生活の話と別にすることもある。

<委員>

・「取組の視点・横断目標」の3つは、神戸という街をどう作るのかという地域づくりの視点と、そこでどう生活するのかという生活づくりの視点、働く場や魅力的な仕事など仕事づくりの視点、この3点から整理すると見えてくるのではないか。

<委員>

・「取組の視点・横断目標」の3つから、施策の7つの柱に紐づかないと感じている。3つのくりに紐づけられるとよい。施策の柱②は全部に関わると思うので、あえてこれを取り上げるのかどうか。

<委員>

・地域・暮らし・仕事の3つのくりということで、暮らしというのを柱に入れていただけでよかったと思う。この3つのくりで作っていくというのはいいアイデアである。「BE KOBE」という言葉は神戸市民として誇りを感じるので、何らかのかたちで入れて、全体のコンセプトとしてはどうか。

<委員>

・意見交換は以上とする。貴重な意見をありがとうございました。

6. 今後のスケジュールについて

<事務局>

－資料7に基づき説明－

7. 閉会